

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

オリンピック教室

実施報告書

栃木県 栃木市立皆川中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目
運動の時間(50分)



2コマ目
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」
等を伝える



個人またはグループワーク
で話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

実 施 内 容

- 期 日 : 2020年12月17日(木)
- ク ラ ス : 2年1組(24名)
- オリンピアン : 佐藤 真太郎 先生(ボブスレー)【出場オリンピック/ソチ大会】
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)
 - ・自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・今日はオリンピック教室として、オリンピックバリューを体験して、皆で協力しながら取り組んでいく運動と座学の時間を実施すると目的を確認し、オリンピックバリューについて、エクセレンス=卓越・皆で協力して技術を研ぎ澄ます、フレンドシップ=友情・皆で協力していくこと、リスペクト=尊敬・尊重・ルールを尊重することと説明し、この3つのオリンピックバリューを大切にしていこうと話し、準備運動に移る。

・主運動 等



・新聞紙を使った体のバランスを意識する運動と、1人1つフーフープを用意し、班毎にお互いのフーフープを持って円になり、距離を保ちながら、フーフープ風船リフティングを実施。



・皆で工夫しながら協力し合うことで、運動はより楽しくなる。オリンピックバリューのフレンドシップを運動を通して感じる事ができたのではないかな。この後の座学の時間では、ボブスレー競技の魅力と共にオリンピックバリューについて話をしていきたいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（6時限）

- ・ 自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・ソチ大会出場時のスポーツウェア等を披露し、自己紹介した後、オリンピックバリューの3つの言葉のうち、運動の時間に守ることができていたフレンドシップ＝友情とリスペクト＝ルールを守ることについて、特に大切であると話す。

- ・ 個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：クラスを良くするために自分ができることをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう

発表：エクセレンス：「一人一人が何事にもベストを尽くす」「整理整頓をする」「挨拶をする」「すぐに怒らない」「ゴミ拾い」「遊ぶ、話す」等
 フレンドシップ：「協力する」「相手が困っている時に手を貸す」「勉強を教え合う」「お互いの良いところを認める」等
 リスペクト：「決まりを守る」「人の欠点ではなく長所を見つける」「相手の意見を尊重する」等



・グループワークで出た意見は、誰かに指示されたものではなく、皆が感じて考えたもの。だからこそ大事にして守ってほしい。考えたことを少しずつ実践することで、このクラスや皆の心が、より豊かになっていく。オリンピック教室で学んだことを糧に、豊かな人間関係を築き、豊かな人生を送ってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

2年1組



■ 記念品贈呈

2年1組



■ 修了証贈呈

